

広島型建築プロポーザルの記録

広島中央警察署本通交番庁舎



1) プロポーザル趣旨

「平和を願うまち広島らしい生命力あふれる交番」

現在の本通交番は、昭和44年に建築された建物で、老朽化が進んでいる状況にあることから、長年親しまれた現在地での建替整備を進める計画としました。

交番施設は、警察が常に警戒体制を保持し、すべての警察事象に即応するための活動を行う拠点であるとともに、地理案内や遺失・拾得物の受理などの幅広い活動を行うことから、地域の安全・安心を守る、県民にとって最も身近な警察施設でもあります。

また、本通交番が立地する地域は、「ひろしま都心活性化プラン」（平成28年度策定）において、中国四国地方最大の「業務・商業ゾーン」と位置付けられており、今後、魅力と活力ある地域環境の創出に向けた動きが、ますます加速化していくことが見込まれています。

本通交番の建替整備に当たっては、地域の安全・安心の要として、交番の役割を最大限発揮させる高い機能性はもとより、「にぎわいと交流」を生み出す“ひろしま”を広く発信できる魅力を兼ね備えた公共建築物を創造することが求められています。

以上のことから、広島中央警察署本通交番庁舎の基本設計

及び実施設計の設計者選定にあたり、公募型プロポーザル方式により、技術力や創造力はもとより、柔軟な発想力にも優れた設計者を広く募集します。

【審査部長からのメッセージ】

交番ほど、多面性を必要とする建築はありません。警察活動のフロントラインには当然、ある厳格さと機能が求められます。しかし地域の安全の拠点として、親しみやすさや安心感、オープンな雰囲気も兼ね備える必要があります。街の中で目印となる強さを持つと同時に、街の賑わいに溶け込むものでもあるべきです。

とりわけ本プロポーザルの敷地である広島市中区本通は、広島という街の多様な魅力が交差する、異なる領域の接点に位置します。人々の賑わいに満ちた場所が、原爆の爆心地や平和公園、広島城や文化・行政の中心と隣接しています。このせめぎ合いの魅力が、これからも輝き続けるために、本交番は多面的な役割を果たすことになるでしょう。

威厳と親しみやすさ、機能と余白、静けさと喧騒、聖と俗、大きさと小ささ・・・様々な背反する側面が凝縮された交番

2) プロポーザル審査委員（所属・役職は当時のもの）



平田晃久
平田晃久建築設計事務所
京都大学教授



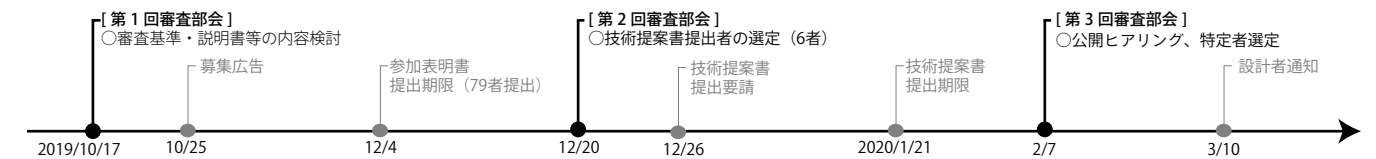
小野田泰明
東北大学大学院教授



角倉英明
広島大学大学院准教授

的場弘明
広島県土木建築局建築技術部長

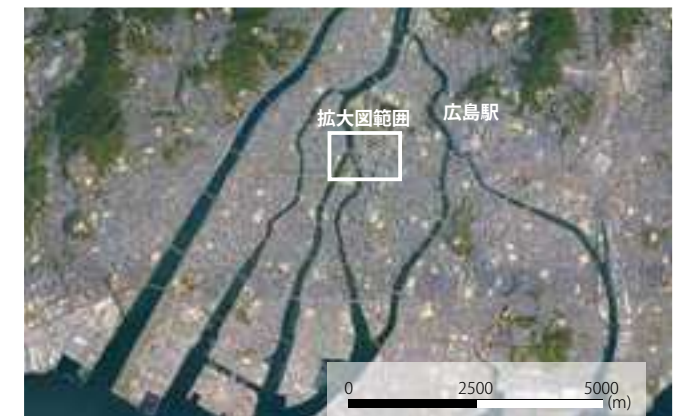
友国雅章
広島県警本部総務部施設課長



をつくること。現代建築が取り組むべき最も興味深い課題のひとつに、応えることでもあります。

平田晃久

広島中央警察署本通交番庁舎設計業務公募型建築プロポーザル説明書より抜粋



所在地	広島市中区本通 5-2
施設用途	交番庁舎
敷地面積	約 131.53㎡
延べ床面積	140㎡
用途地域及び地区の指定	商業地域 防火地域、地区計画、居住誘導区域 広島景観計画（一般区域）
主要構造	鉄筋コンクリート造、または鉄骨造 2階建て
建設工事費	約 90,000万円
建設期間	8ヶ月（予定）

3) 設計者選定までのプロセス

一次審査 (7月中旬)

一次審査は、全国から寄せられた79案から、技術提案書を求める設計者を5者程度選定することを目的として行われた。そのプロセスを示す。

- ① 79案に対して審査員が投票(一人10票)を行った。1票のみ獲得した19案から、議論に残す6案を選び、これと、2票、3票獲得の案と合わせて全18案を選定した。
- ② 18案について、タイプごとの分類を行い、それぞれのプランの中で優劣を議論し、各プランタイプから代表して1案程度ずつが選出された。
- ③ 6案が選出され、一次審査通過となった。

<タイプ分けの例>

- ① カウンターを独立しているものと、全体を都市に表出しているものの比較
- ② 大きなボリュームで覆うタイプ
- ③ 断面にガーデンを挿入するタイプ
- ④ ガラスファサードで内部が吹き抜けているタイプ
- ⑤ 前面にバッファー空間を引き込むタイプ
- ⑥ バッファー空間を引き込むタイプ
- ⑦ 軒を低くしてヒューマンスケールに対応しているタイプ

79→18



18→6



株式会社高橋一平建築事務所



株式会社近藤哲雄建築設計事務所



GRIND ARCHITECTS



南俊允建築設計事務所



大旗連合建築設計株式会社



アライイリエアーキテツ



6→2



2→1

二次審査 (8月9日)

6者による公開プレゼンテーション、ヒアリングが開催されたのち、二次審査が行われた(非公開)。議論の中で2案に絞られたのち、特定者が決定された。



次点者(株式会社近藤哲雄建築設計事務所)の案



特定者(南俊允建築設計事務所)の案

[第1回審査部会]

○審査基準・説明書等の内容検討

募集広告

参加表明書
提出期限 (79者提出)

[第2回審査部会]

○技術提案書提出者の選定 (6者)

技術提案書
提出要請

技術提案書
提出期限

[第3回審査部会]

○公開ヒアリング、特定者選定

設計者通知

2019/10/17

10/25

12/4

12/20

12/26

2020/1/21

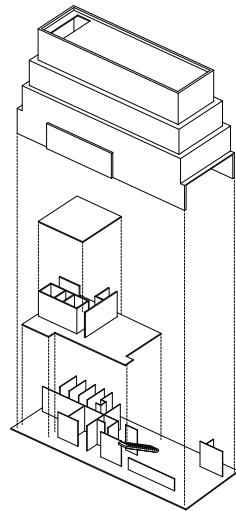
2/7

3/10

4) 1次審査通過案について

「安心感や関心力、交番の包容力をかたちにする」

設計者：高橋一平建築設計事務所



『交番のなかの"家"』

一般来訪者が利用する場所は天井の高い大空間に設けオープンな雰囲気をつくり緊張感を緩和する。集中力や一体感を要する執務室や仮眠室等は小空間に集約し、「交番のなかの家」として対比させ、守る。

『ジックラート形状』

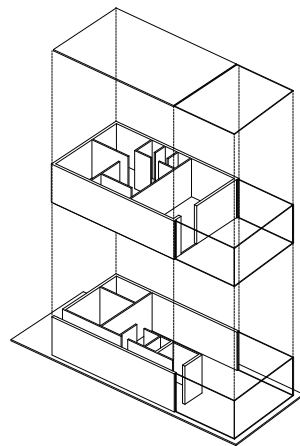
外壁セットバックが、階高のある吹き抜け空間の構造体を安定させつつ外観を特徴づける。また、「ジックラート形状」による安定性のある簡素な構造体が、堅牢かつ軽快な外観を実現する。

『大らかな環境としての大空間』

交番の執務空間を調整する「環境域」としての大空間。外部と内部の間に存在し、街の喧騒に対し静かで落ち着いた雰囲気を生み出し、来訪者を明るく迎入れる。訪れやすだけでなく、警官の居心地にも貢献する。

「地域とつながる 土間のある交番」

設計者：近藤哲雄建築設計事務所



『柔軟に対応できる平面計画』

明快な構成の平面計画であるためフレキシブルな調整が可能になる。今後警察本部や関係各所との対話によって柔軟にプラン検討を行える。

『交番と地域を繋げる客溜まり土間』

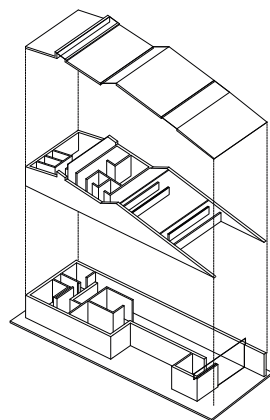
客溜まり土間は計画・機能・構造や設備などすべてのバッファゾーンとしての役割を持つ。背反する目的を持った場所を明確に分けつつ両者を繋げ、交番と地域との円滑な関わり合いを促す。

『自然エネルギーを利用した設備計画』

客溜まり土間の排煙窓と通り土間で換気動線をつくり建物全体の熱環境を調整する。一年を通して地熱利用で地中の一定の熱を居室や客溜まり土間に取り込む。

「シンボルとなる力強い架け橋」

設計者：GRIND ARCHITECTS



『光を取り込む配置計画』

中央警察署は、中心市街地ならではの極小地域であり、必要容積は低層であるため、周辺建物により敷地奥側につれて暗くなる。そこで、建物を分割し光溜まりとなるバッファ空間を挿入することで明るい交番として計画する。

『橋のような軒先』

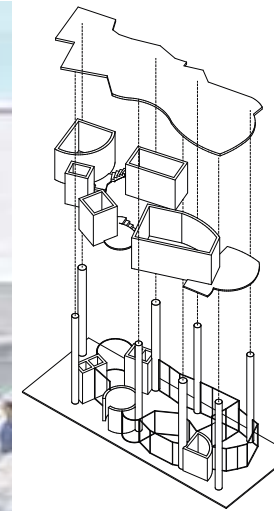
深い軒先を街並みの壁面位置と合わせることで周辺環境との調和を図りながら、街に対して圧迫感の無い開放的な佇まいとする。屋根は柔らかいカーブにより外観は力強さを持ちながら伸びやかな室内空間とし、広島に多数存在する「橋」のような建物尾の風景を作り出す。

『ヒューマンスケールの半屋外』

アプローチの土間や坪庭から街に対して立体的なオープンスペースをつくることで街に豊かさをつくりだし、親しみのある施設を目指す。

「HIROSHIMA Pilotis」

設計者：南俊允建築設計事務所



『人々の拠り所と通りの延長としての交番』

人の気配が感じられる空間構成により、高齢者や子供なども入りやすく親しみやすい環境を作る。まちに開かれた佇まいを超えて、広島らしいピロティ空間は、通りの延長して「誰もが気軽に立ち寄ることができる」という真の意味での景観との調和を実現する。

『複雑な屋根形状』

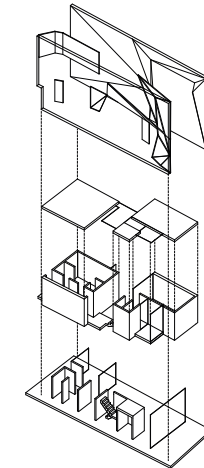
階地建物壁の高さや方位に応じて、屋根をセットバックすることで、壁面を反射した自然光を採りこみ、明るく快適な空間をつくる。

『多様な居場所を持つシンプルで明快な計画』

大きな屋根下のワンルームの空間は、まちに開かれた通り側から奥に行くほど勤務員専用空間が確保される安全で明快な配置とする。プライバシー性の高い諸室は明快な室とし、その周りに多様な居場所が生まれるように配置計画をする。

「都市と渓谷、拠り所となる交番」

設計者：大旗連合



『渓谷のような交番』

地形のような壁が外部から内部へ視覚的に連携し、開放的な親しみやすさを生み出す。一方で必要に応じて視線を制御し、一般人と警察官の適切な距離感を保つ。

『警察官にとって便利な平面計画』

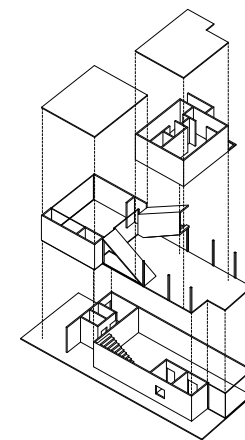
警察官が最も滞在時間の長い事務室を中心に諸室への動線をコンパクトにした計画。客だまりを含めた道路に関するスペースは建物内からの視認性を確保する平面形状とし、事務所を中心にワンルームとして、使用頻度の低いコミュニティ室は事務室と折れ戸で仕切ることにより多目的に利用できる計画としている。

『交番の存在を伝える力強く印象的な外観』

地形のような袖壁は通りからの視認性を高め、人々の印象に残る力強い外観をつくる。前面道路から敷地の奥まで視線が抜けることで、親しみのあるエントランス空間とする。

「明るい気配をもたらす交番」

設計者：アライイリエアーキテクト



『奥を明るくする立体構成とセキュリティ』

駐輪場による奥の空白、北側の隣地建物から隙間を空けた3階の配置によって、道路から見た時に建物越しに敷地の奥や、2階レベルが明るく浮かび上がる。多くの外部空間を持つ立体的な構成は投げ込み等不測の事態を抑止する構成である。

『テラスと一体化するコミュニティ・会議室』

コミュニティ室・会議室は道からの視認性が高い2階のテラスと接続する。明るい2階全体を地域と共に使い、今まで以上に地域との連携を図った交番の在り方、使い方を可能とする。

『街を見守る平屋の窓口』

地域の人々にとって最も重要な交番の窓口部分は平屋とし、道に面して設けることで、周囲の街並みとの連続性を保ちつつ、圧迫感を与えない、親しみやすいたたずまいとする。

5) 公開ヒアリングの質疑と総評

高橋一平建築設計事務所



Q. 今の高さは12mとなっていますがプロポーションやボリューム感の必然性はありますか。

→本当は14.5mあるといいなと思っていたが、今の建設事情を考慮し12mとした。もしそれが9mになっても考え方はあまり変わらないかなという風に思っています。

Q. 多目的トイレが奥の方に入っているがセキュリティラインはどう考えているか。

→他のプランニングもシミュレーション済みです。今回は一番フロントラインが開放的になるプランをお持ちしました。

Q. ランニングコストは60万余りで済ますということですが、現交番でも年間40万円くらいの費用がかかっているのに対し、この空間においてその費用で本当に収まるのでしょうか。

→各個室は個別で空調すればいいと思いますが心配なのが天井の高い部分。これは足元から温めることで暖かくなるだろうという考え方です。床暖房の範囲も細かく切り替えられるようになってますので人がいる場合は付けいない時は切るというような考え方です。

総評

株式会社高橋一平建築事務所の提案は、屋内の諸室の上にかかる特徴的な覆いによって象徴的な空間の広がりを実現し、都市に対して新しい交番の姿を提示するものであった。安心感のあるその外観から、治安を守る警察官が働いているメッセージが伝わりやすいという評価を得た他、公開プレゼンテーションと質疑における応答性についても、評価がなされた。しかしながらそれらの指摘も、通り土間及び2階の廊下の開放性に関するセキュリティ、温熱環境維持のためのランニングコストといった課題を覆すまでには至らなかった。

近藤哲雄建築設計事務所



Q. 事務所の面積が26㎡ということで、こちらとしては30㎡ほど欲しいかなと考えているのですが、前の方の客だまりの方Wへ伸ばすなどという工夫によって拡張することは可能でしょうか。

→もちろん可能です。例えば客だまりがこれの半分になってしまったら、皆さんが気軽にやってこれるのかどうかということや警察官の方が快適に勤務できるのかなどのバランスを考えながらやっていきたいと思っております。

Q. この提案は客だまり土間が勝負で、逆に言えば客だまり土間が普通の空間だった場合に陳腐なものになってしまう。今の条件でこういう空間が客だまり土間としてあるべきだというものを踏み込んで説明していただけますか。

→私の中でこの土間は外部だと考えています。半外部仕様なのですが基本的には外、だけれども空調的に整えられていて雨も降らず良い自然光が降ってくる。外っほい雰囲気とかではなく外なんだけど安心して使えるといったような空間を考えています。

総評

株式会社近藤哲雄建築設計事務所の提案は、整形で機能的な平面計画に加え、前面の土間空間を含んだ象徴的な外観が特徴的な成熟した提案であった。事務室の広さ、コミュニティ室の位置、階段、明確なセキュリティラインの設定等、機能性においてもイメージし易く、参考として行った予備投票でも最多の4票を獲得している。しかし、その一方で、コンセプトである象徴的な土間空間が、通常の交番と代わり映えない空間となる可能性を有していることに対する懸念を最後まで払拭することができず、惜しくも次点に留まることとなった。しかしながら、極めて僅差の評定であったことは強調しておきたい。

GRIND ARCHITECTS



Q. なぜ勾配屋根という形態を用いたのか。

→広島市は歩いて10分15分くらいのところに勾配屋根の低層の民家があります。交番も最初は隣接する商業施設と立面を揃えていたのですが、圧迫感が強くなってしまったため、軒の線だけを合わせて立体的に庭を作りました。

Q. 昔の元安川沿いの写真とか見るとこういう風に時がシュッと出て平入りの町屋がいっぱい並んでいたいわで、それが戦争によって一瞬のように焼けてしまったそういうオマージュのようなものをこの提案の向こう側に見てしまったのですが、そういうのはあまり関係ないということですか。

→戦後の話や戦前の話は結びつけているっていうものはあまり考えていないです。どちらかと言うとコンクリートを使うように提案しているんですけども広島に残っている建物のほとんどはコンクリート製ということなのでそういった意味での素材としては継承するような形は考えています。

総評

GRIND ARCHITECTSの提案は、予備投票においては、獲得票はなかったものの、軒を下げつつ住宅のようなヒューマンスケールに対応させた外観と、機能的な平面配置及び坪庭を用いた光を取り込んだ空間提案において、快適な執務環境を作り出さる合理性の高い提案であることが、改めて確認された。一方、公開プレゼンテーションとその後の質疑応答において、歴史性や街並みへの配慮といったこの案が持つ可能性について、設計者自身があまりこだわりを持っていないことが判明し、案の発展を妨げるのではないかなという指摘が出され、最終段階に残ることができなかった。

南俊允建築設計事務所



Q. 一次の時は全体として柱に見えるというようなシルエットを提案されていたが、今は全体は屋根でそこに柱が落ちていてそしてそこに箱があるというようなものになっていて、今回のこの造形物の考え方とその変化についてはどう思う風に考えていますか。

→初期のころの模型では柱自体に力強さがあるものを想定していました。二次に進むにあたって20世紀の物自体が象徴となるのではなく、活動自体が表に出ることがこの町にふさわしいと思い、変化があった。

Q. 警察官がここで24時間ずっと勤務を強いられるわけですが、その場合に見通しが良い、逆に言えばプライベートな休憩する場所を外部から容易に見通せるような状況ですがその辺の配慮は何かお考えですか。

→一模型を見ていただくとわかりやすいのですがここに男性用の仮眠室、女性用の仮眠室があります。例えば女性の方の仮眠室の方まで中に入って螺旋状に上がるんですけども基本的にこちらに開口が開いていたり向こう側から入ってくるような表側ではない方向に開いているような構成をとっています。

総評

南俊允建築設計事務所は、プライバシー性の高い諸室をボックス状の部屋として随所に配置するとともに、周囲の建物ボリュームを考慮した屋根が、それを囲みつつ光を屋内に導き入れる魅力的な提案である。柱と屋根が作り出す力強い架構と透明感ある外観は、市民に親しまれる交番としての象徴性、ならびに街に対する空間性の提示を期待できるものとして評価された。特定にあたっては、各委員による厳しい議論を経て、警察官が日々の勤務を遂行するうえで必要となる様々な条件についても調整が可能な範囲であることを確認した。

大旗連合建築事務所



Q. なぜ"溪谷"という概念を持ち込んだのか。

→一事務室と一体となった吹き抜け空間と自然ではありえない地形の中に居室というか、スペースがあるという点が自然の状態と今回の状態と違って、そうするとその地形みたいな壁を横断しなければならぬという状況が発生します。それを私たちは地形とか溪谷という状況からは少し外れてしまうんですけども、機能面で風を抜いたりとか、人を通すとかいうところを避けたりしてということと少し不純な部分もあるんですけども、そういった形態として考えていました。

Q. コミュニティ部分が折れ戸ということになってますが、現実的にはやはりあまり外部から見られたい場所ですし、強度的にもやや弱いかなと思うのですが、この部分を防いでしまうことは大きくコンセプトから外れますか。

→折れ戸につきましてはアルミ製の折れ戸というものもありまして、公共建築にも使われてきているような製品を面材で作れば塞ぎつつもオープンにすることはできます。下の方で塞いでも欄間の部分で抜いていくといったようなやり方などいろいろ考えられます。

総評

大旗連合建築事務所の提案は、広島市中心市街地に良い影響を与え得る特徴的な屋内空間を持ちながらも、セキュリティ性を求められる諸室を適切に2階に配置する等、提案性と機能性のバランスの取れた案として評価された。しかしながら、都市における「溪谷」という概念がなぜここに導入されなければならないかを、公開プレゼンテーションと質疑応答において、提案者が自らの言葉で説明することが出来ず、最終的な議論に残ることが出来なかった。

アリエイリエアーキテツク



Q. このテラスができることがこの案の特徴であり魅力であると思うんですけど、同時にこのテラスはどういう使われ方をするのか、その辺のイメージというか考え方をもうちょっと詳しく聞かせてください。

→広島県警が行っている高齢者の運転免許自主返納に関する活動などの広報活動など、普段でしたらイベント会場とかでやっているようなことを街中でやるということを想定しています。

Q. 警官は仮眠しているとはいいいながらもすぐ出勤しなければならないときや襲撃に対応しなければいけないときがある。仮眠室の位置などの問題が出た時、コンセプトを維持したままどういった展開が可能ですか。

→我々の提案で最も重要なことは仮眠室を3階にあげるのではなく、敷地全体が明るく本能的に気持ちよさそうだなという感じを作ることにある。今後の協議によっては仮眠室を2階に持っていき、会議室を3階に持っていくなどといった可能性もあります。

総評

アリエイリエアーキテツクの提案は、諸室をボックス化してセキュリティ性を高めつつ、中層にテラスを組み合わせた都市に開かれた空間を確保した魅力的な提案である。構造的にも丁寧な統合が行われおり、提案の練度については高い評価がなされた。その一方、テラスの広報的活用など、提案の現実性とその意義についての懸念を払拭するには至らなかった。僅差で最終段階への移行を逃すこととなった。

HIROSHIMA Pilotis

ヒロシマピロティ

交番での活動やまちの人たちを受け入れる「大きな屋根の下の自由な空間」と「力強い柱」を中心に、広島のみなさんの心のよりどころとなる生命力溢れた「大きな木々の下のような交番」を提案します。

平和を願うまち広島にふさわしい生命力溢れる建築をつくる

広島をまちを改めて訪れた私たちは、今も残る戦争の記憶と平和への強い願いに心を打たれ、ここに、**平和を願うまち広島らしい生命力に溢れる建築をつくる必要がある**と実感しました。この交番を3つのコンセプトを軸に実現します。

- 1 交番を人々が集うプラットフォームと捉え、**様々な活動と人の気配が感じられる温かさのある建築**をつくりまします。
- 2 街に対して壁で隔てるのではなく、**大きな屋根により「人々の拠り所」と「開かれた街並み」**をつくりまします。
- 3 「力強い屋根・柱」と「更新可能なピロティ空間」により**時代を超え100年後もたち続ける建築**をつくりまします。



通りからの全景



客溜りからカウンターを見る



2階会議室入口から奥を見渡す



カウンターから通りを見る



2階奥からカウンターを見る

(1) 親しみやすさと力強さを備えた機能的な施設づくり

「力強い柱」と「大きな屋根とその下の自由な空間」

広島を歴史・文化が持つ「強さ」とまちに溶け込む「弱さ」が共存した生命力溢れる交番

A 広島にしかない空間を継承し発展させます

私たちは広島をまちを歩き観察するうちに、「力強い柱」と「大きな屋根とその下の自由な空間」に広島にしかない居場所を感じました。これらを継承した交番をつくりまします。

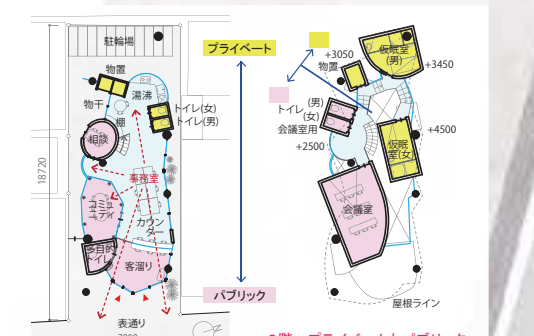


広島平和記念資料館 おりづるタワー 厳島神社 大鳥居

私たちは、架構・物質・建築がもつ空間の力を信じています。

B 多様な居場所をもつシンプルで明快な平面計画・動線

- ・大きな屋根下のワンルームの空間は、まちに開かれた通り側から奥に行くほど勤務員専用空間が確保される安全で明快な配置とします。
- ・プライバシー性の高い諸室は明快な室とし、その周りに多様な居場所が生まれるように配置計画します。



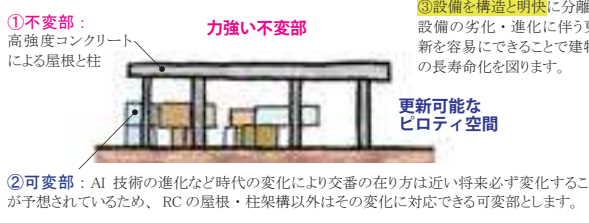
1階：中央の事務室を中心に見通しのきくワンルーム
2階：プライベートとパブリックを明快に分けつつ、空間を共有できるおらかな空間構成



平面図 1/300

C 100年後もたち続ける時を超える建築と仕組み

時を超えること、時と共に変容することが同在する建築こそ、変化の激しい現代に必要なと考えます。



①不変部：高強度コンクリートによる屋根と柱
②可変部：AI技術の進化など時代の変化により交番の在り方は近い将来必ず変化することが予想されているため、RCの屋根・柱架構以外はその変化に対応できる可変部とします。

D 力強さと耐久性・柔軟性を兼ね備えた構造計画

- ・主体構造は8本の円柱と大屋根で架構を形成し、大屋根のRCスラブ内に鉄骨梁を内蔵させることで、耐久性・耐火性に配慮します。
- ・柱スパンは経済性を考慮したスパン間隔とし、屋根部の変形の抑制にも寄与する配置計画です。
- ・柱断面寸法は力の流れを考慮し、2種類のサイズを使い分けた安全性と経済性に配慮した部材配置としています。
- ・可変部においては床および屋根部から支持されることができ構造とすることで、用途や時代の変化に対応できる構造計画としています。

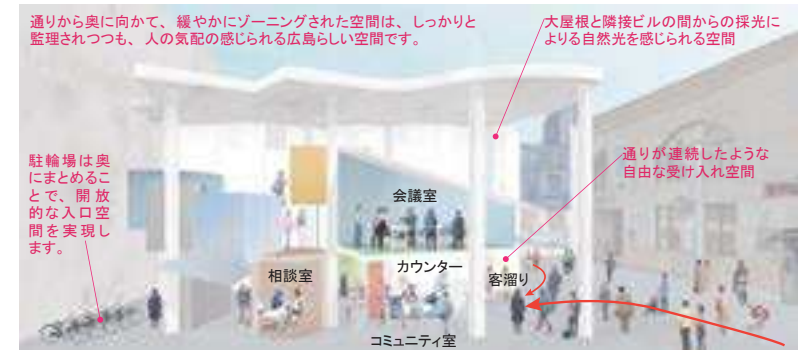


断面図 1/300

(2) 周辺環境と調和した良好な景観の形成に資する魅力ある施設づくり

大きな屋根がつくる「人々の拠り所」とまちの活動と連続する「通りの延長としての交番」

人の気配が感じられる空間構成により、高齢者や子どもなども入りやすく親しみやすい環境をつくりまします。まちに開かれた佇まいを超えて、**広島らしいピロティ空間は、通りの延長として「誰もが気軽に立ち寄ることができる」という真の意味での景観との調和を実現します。**



F 周辺環境との調和活動が参みでる交番

- ・まちに対して壁で隔てるのではなく、**屋根をかけて賑いと交流を生む通りの延長となる場・中間領域**をつくりまします。
- ・屋根高さにより景観の連続性に配慮します。



特に重視する設計上の配慮事項
X 境界を強める壁 O まちに開かれた屋根下の空間

G まちに開かれた開放的な外観により生まれる親しみやすさ

- ・地域に開かれた明るく多様な屋根下空間。
- ・通りからも認識しやすい特徴的な軒先。
- ・地域のイベントの際も商店街アーケードと連続した居場所となり周辺環境との調和が生まれる通りの延長としての交番

概算工事費
概算総工事費(税抜) 9,000万円